

「神の厳しさと優しさ」

民数記 20章 1～13節 21章 1～9節
～モーセの生涯（最終回）～

はじめに

今回は、モーセの生涯の最終回です。荒野での40年間の生活も終わりに近づき、民はツィンの荒野に着きました。そこから最後の旅にでますが、ここでモーセは大きな失敗をしてしまいます。その結果、彼は約束の地に入れなくなります。

1 神の厳しさ（20:1-13）。

モーセは、主から「あなたがたは、この集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない」と言われました（12）。それは、なぜだったのでしょうか。そこに、
神の厳しさを見ます。

(1) モーセの姉ミリアムと兄アロンの死（1 22-29）

モーセの姉ミリアムと兄アロンは、モーセの良き理解者であり、協力者でした。

ミリアムは預言者として、アロンは大祭司として。ただ、ミリアムはある時モーセにつぶやいて罪を犯したため、アロンはメリバの水のことでモーセとともに神に逆らったため、約束の地に入れませんでした。

荒野の生活の最後に、相次いで姉と兄を失ったことは、大きな悲しみでした。

(2) 民のつぶやき（2-5）。

モーセの失敗の原因となったのは、民のつぶやきでした。そこには、水がなかったので、民はまたもやモーセとアロンに逆らったのです。

(3) 神の命令（8）。

モーセとアロンは、神の前にひれ伏しました。すると、主の栄光が現れ、主はこう言われました。「杖を取れ。あなたとあなたの兄弟アロンは、会衆を集めよ。あなたがたが彼らの目の前で岩に命じれば、岩は水を出す。あなたは、彼らのために岩から水を出し、会衆とその家畜に飲ませよ」。

(4) モーセの失敗（10-11）。

モーセは、杖を取りました（9）。民を集めました（10）。そこまではよかったのです。しかし、次に彼らに「逆らう者たちよ。さあ、聞け。この岩から私たちがあなたがたのために水をださなければならないのか」と言いまし

た。そして、手を上げ、彼の杖で岩を二度打ったのです。すると、たくさんの水がわき出たので、会衆も家畜も飲みました。しかし、です。その後で、主はモーセとアロンにこう言われたのです。「あなたがたはわたしを信ぜず、わたしをイスラエルの人々の前に聖なる者としなかった。

それゆえ、あなたがたは、この集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることは出来ない」。

なぜでしょう。水は出ました。でもなぜ。二つの理由が考えられます。

- 1 軽率なことば。詩篇 106 篇 32～33 節にこうあります。「彼らはさらにメリバの水のほとりで主を怒らせた。それでモーセは彼らのためにわざわいをこうむった。彼らが主の心に逆らったとき、彼が軽率なことばを口にしたからである」。彼が言ったことばのどこが問題なのです。よく注意して見てみましょう。

問題のことばは、「私たちがこの岩から水を出さなければならないのか」です。水を出すのはだれでしょう。モーセたちですか。神様ですか。モーセは、「私たちが」と言っています。民が何度も何度も逆らってきたので、モーセの気持ちは限界に来ていたのでしょうか。

主は「わたしを聖なる者としなかった」と言われたのは、そのためです。神を崇めるべきでした。自分たちにではなく、主に栄光を帰すべきだったのです。

適用： 私たちも、主にではなく、自分を誇り、自分に栄光を帰すことはないでしょうか。神ではなく、自分を賛美していることはありませんか。

- 2 もう一つに理由は、主は「岩に命じて」と言われたのに、「杖で岩を二度打った」ことでした。主は「あなたがたはわたしを信ぜず」と言われました。モーセは、命じるだけでは不十分と思ったのでしょうか。それとも、主の命令をしっかりと聞いていなかったのでしょうか。たとえ、水が出たとしても、モーセは主に従ったのではなかったのです。

適用： 私たちは「結果良ければすべて良し」と思いがちです。しかし、信仰の世界、クリスチャンの生活原理は違います。結果よりも過程が大切なのです。主を信頼し、主に従うことです。結果は、神様がもたらしてくださいませ。

(5) 神の宣言 (12)

それは、厳しいものでした。「あなたがたは、この集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない」。モーセとアロンは、約束に地を目の前にして死ななくてはなりませんでした。

適用： 神の厳しさに耐えることのできる人は、ひとりもいません。神の基準に及ぶ人はいないのです。このことは、私たちに、イエス・キリストによる救いの必要を強く教えています。

イエス様の十字架の贖いによる罪の赦しがなければ、だれも救われないからです。主イエス様に感謝しましょう。

2 神のやさしさ (21:4-9)。

ホル山まで来たとき、そこでアロンは死にました。ホル山からエドムの地を迂回して葦の海に行く途中で、民はまたモーセに逆らいました。

(1) 神のさばきにより多数の死者を出す (6)。

神は、「燃える蛇」つまり焼き付くような痛みと激しい毒をもたらす蛇を送り、蛇は多くの人々にかみつきました、死者がでたのです。

(2) 民の悔い改めとモーセの祈り (7)。

民は、モーセのところに来て罪を告白し、赦しを神に求めてくれるように懇願しました。モーセが祈ると、主は言われました。

(3) 救いの道 (8-9 ヨハネ 3:14-15)。

「あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけよ。すべてかまれた者は、それを仰ぎ見れば、生きる」。モーセは、その通りに蛇を作り、旗ざおの上につけました。そして、仰ぎ見た者は、生きたのです。蛇に魔力があったのではありません。神様の約束を信じてこれを仰ぎ見た者だけが救われたのです。

これは、聖書の重大な真理を教えています。それは、神を信じる信仰です。

適用：この出来事と真理は、新約聖書ヨハネの福音書 3 章 14～15 節に引用されています。「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです」。

ここでは、「人の子」つまりイエス・キリストがあげられることが語られていますが、それは、十字架にかけられること、また、復活して天に上げられることを指しています。

そして、イエス・キリストを見上げる者、すなわち信じる者が、すべて永遠のいのちを持つこと、救われることを教えています。

結論

モーセは、民のつばやきに腹を立て、軽率なことばを口に、軽率に行動したために、約束の地に民を導き入れることは出来ませんでした。しかし、民のつばやきにもかかわらず、神は民に水を出し、青銅の蛇を作らせて、お救いくださいました。このように、神はまた、優しい、愛に満ちた方でもあります。その神の厳しさと優しさが極限で現れたのが、イエス・キリストの十字架です。それは、

神の義と愛が交差して示されています。十字架は、愛だけを示すものではありません。神の正しさと聖さも示されているのです。そこにこそ、私たちが救われる道があるのです。

救い主として受け入れていない人への勧め。

あなたは、今日までイエス様を知らなかったかもしれません。しかし、イエス様はあたを知っておられます。今日、今、イエス様のもとに帰っていらっしやい。イエス様は、それを望んでおられます。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」(黙示録 3:20)

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」
(使徒の働き 16:31)

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」(ヨハネ 3:16)

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私は、あなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださいました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。 アーメン